

災害対応でLPG車導入



エースベークキングの吉田営業本部長とサクシード

は環境にも配慮した商品で、オートガスは環境にやさしい燃料である。企業活動は地域貢献と常に連動しなければならぬ。

LPG車は東日本大震災の時に大きな活躍を見た。当社には食品在庫(冷凍生地、冷凍パン)があるほか、賞味期限5年の防災パンも取り扱っており、災害時に地域の役に立てることがかなりあるのではないかと、食品会社として、災害時にできる役割を考えた。パンは製品化してからある程度の期間、常温保存が可能で、災害時に現地で火を使う必要がない。米と比較して重量が軽く、配送しやすい。

災害時でも地域の役に立てる会社でありたい。最終的には保有車両をすべてLPG車に変えてい

ばかりで四輪駆動車さえもなく、災害時に機能できる車がない。

エースベークキングは翌月、清須市と災害応援協定を締結した。

東日本大震災の被災地で、救急車がガソリンスタンドの順番待ちの列に並んでいる映像は衝撃的だった。緊急車両でさえ、わずかな燃料を求めてガソリンスタンドに並ぶ姿を見て、燃料がなくなることの過酷さを思い知らされた。私自身、何度も被災地に足を運んだが、いざという時に給油所に何時間もくまりに並ぶ車では、本来の役割を果たせないと感じた。しかし、LPG車はそうならなかった。つまり、「災害時に強い車」であるということ。

私もバイフェューエルのLPG車を選択し、改造を位田モーターに依頼した。議員としての仕事を忠実に全うするうえで、これ以上適した車はない。ガソリンに比べ単価が安いLPGガスを燃料とすることは、市財政への負担減にもつながる。

エースベークキング

国の災害時対応型LPG車導入対策補助金を活用して導入したLPG車によって、地方自治体と導入企業との災害応援協定が視野に入る好事例。業務用パンの卸売を手掛けるエースベークキング(愛知県清須市、吉田哲也社長)は食品会社として災害時にできる役割を考え、災害時でも配達できるように対応するため、バイフェューエルLPG車の導入を開始した。

全車両を切り替える意向

関連会社で業務用パンを製造するエース・フレッド(同、高野一有記社長)が冷凍パンや賞味期限5年の防災パンも製造しており、コストダウン、地域貢献、災害対策の観点から、戦略の一環として導入を決めた。

昨年10月29日には清須市議会の林真子議員と名古屋市の沢田晃一議員がエース・フレッドの工場とLPG車を視察。2人の議員とエースベークキングの吉田営業本部長、LPG車への改造を担当した位田モーター1ス(名古屋市長、位田肇



するかが経営課題。車両保有台数は39台。平均燃費7km/lで21万km走行した場合、約200万円のコストダウンができる。この位田専務からの試算を受け、補助金を利用した場合にかなりのコストダウンできる期待がある。

一方、地域に対して納税、雇用、イベント参加だけで、本場に地域に貢献しているといえるのかと疑問を抱いていた。関連会社工場もあり、環境に対する取り組みをしていく中で、初めて地域貢献ができていく。

きたい。現在は東邦液化ガスのオートガススタンドを利用している。

位田「LPG車に加え、簡易型オートガスタンド、災害対策用バルク、発電機を設置する提案をしている。実現すれば、炊き出しもできるようなになる。」

位田「大手スーパーなど小売店舗との災害時協定を締結しているが、そこへの供給が止まった場合を考えると、材料からある企業と協定を締結できたらありがたい。配達面でも心配がなくなる。清須市の公用車は普通の車(敬略)」



清須市の林議員(左)と名古屋市の沢田議員

位田モーター1スの位田専務(右)

配達車として活躍するハイエース